

～四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業～

【事業 I】

「四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置とAO入試の共同実施」

1. **事業概要**：四国地区の5国立大学が連携して「四国地区国立大学連合アドミッションセンター」を設置する。同センターは各大学との緊密な連携のもとで、入学志願者の資質や適性を総合的に評価する新たな入試を共同実施する。

2. **構成大学**：愛媛大学（基幹校）、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、高知大学

3. 実施計画

- ① 本センターはメインオフィスを愛媛大学に置く。他大学にはサテライトオフィスを設置する。少なくとも6名の専任教員を擁し、この種のセンターとしては国内で最大となる。
- ② センターは、入学志願者の能力・適性（学力を含む。）、意欲、目的意識などを総合的に評価する新たな選抜方法を開発する。
- ③ センターは構成大学との連携により新入試を共同実施する。当面はAO入試とし、専任教員が出願書類や学力を丁寧に評価する。
- ④ センターは構成大学の入試広報、入試事務及び入学予定者に対する入学前教育の一部を一体的に実施する。

4. 事業実施の背景

国立大学においても、推薦入試やAO入試の導入が進み、受験機会の増加や選抜基準の多元化が図られるなど入試改革が進んでいる。しかしながら、未だ十分ではなく、入学者の学力や意欲の低下が懸念されている。また、入試は一発勝負であるとされ、受験生の日常的な高校における諸活動よりも、1点刻みの入試成績を重視する入試制度が支配的である。このようなことから、多くの高校では、いわゆる受験対策が中心となり、探究心や問題解決能力など本来の学習活動で養うべき側面が疎かにされる傾向が見られる。これは高校側の責任というよりも、大学側の入試制度にも原因がある。大学入試の抜本的改革の必要性は極めて大きい。

5. 新入試の方向性（検討案の例）

- ① センターの専任教員はアドミッションオフィサーとして、主体的に志願者の評価を行う。
- ② 志願者の評価方法としては、日常的な高校での学習活動の成果、志望理由、意欲等を総合したものとなる。
- ③ 日常的な活動を重視することから、出願書類に記載された内容の事実確認は入念に行う。出願書類が重視されるので、高校との連携も欠かせない。
- ④ 1点刻みの試験成績は用いないことから、自由度の高い入試となる。例えば、面接を行う場合であっても、一律の試験日や特定の一試験場に限定しない。
- ⑤ 構成大学間では、例えばA大学の会場で受験して、B大学への入学が可能となる制度も考えられる。

6. 効果

- ① 受験生としては、高校での学習活動のある時期から入試対策に切り替える必要性がないため、3年夏以降も部活動や「課題研究」等を継続できる。また、社会参加（ボランティア等）の機会も増加する。

- ②面接や書類などにより、入念に選考するため、いわゆるミスマッチの可能性は減少する。
- ③平常時の学力を適切に評価するので、入試センター試験などの「一発試験」の失敗により不合格となる事態を回避できる。
- ④連合AO入試の導入を契機として、四国地区の教育連携の強化や教育資源の共有化が推進され、地区全体で学生の質保証をする仕組みが構築しやすくなる。

7. 事業経費：平成24年度～平成29年度

総額 5億3,140万円

〔 内 文部科学省補助金 3億6,240万円
大学自己負担金 1億6,900万円 〕

【概念図】



【問い合わせ先】

愛媛大学教育・学生支援機構アドミッションセンター
副センター長 井上 敏憲

TEL: 089-927-8113

E-mail: inoue.toshinori.mu@ehime-u.ac.jp